

『竹取新聞』でも掲載している「室礼（しつらい）」
昨年実施した社内インタビューのご紹介です。
日々の暮らしや行事の参考になれば幸いです。

十一月 七五三

子どもたちの成長過程を無事過ぎるごとの
お祝いと、厄除けの行事。

— 今回明治神宮にてインタビューをさせて頂きます。同じ新宿とは思えないような雰囲気ですね！

宮前 本当、場が澄んでいる感じがしますね！

— ちょうど、七五三で参拝に来ているご家族がいましたね！

宮前 おじいちゃん、おばあちゃんも一緒でしたね。子ども用のスーツを着ている子もいましたが、私の時は美容院で着付けをして、帯がきつくて、泣いた記憶もありますが、いつもと違う着物姿へのワクワク感も覚えていました。

— 私も白と水色っぽい着物を着て、写真をいっぱい撮ってもらった記憶が残っています。

宮前 今は着物を着る機会も少ないですから、大事な機会ですね。確かにそうですね、七五三で着物を 着た以降、着たことがないかもしれないです。成人式はスーツでしたし、大人になっても、子どもの頃着たことを覚えているので大切な機会ですね。



宮前 思えば、赤ちゃんの誕生から七五三の行事までに色々なお祝いがある中で、私自身、最初の記憶に残る思い出は「七五三」だったような気がします。

— 言われてみたら、私もそうかもしれません。行事は幼心にも残っていますね。ところで、七五三はどういった行事なのでしょうか？

宮前 そもそも七五三を調べてみると、室町時代に始まった「帯解きの義」（おびとき）が起源で、子どもの成長の祝いとして、宮中や公家、武家で行われていた男女二歳の「髪置（かみおき）の儀」、五歳になると、男の子に初めて袴を着せて碁盤の上に立たせる「袴着（はかまぎ）の儀」。七歳になると、女の子にそれまで帯の代わりに付けていた紐から、帯を初めて結ぶ「帯解（おびとき）の儀」と称したお祝いの儀式で、昔の行事の習慣が、七五三の原型になったと言われています。

— そんな言い方調われの行事だったんですね。

宮前 昔は医療が未発達なこともあり、子どもの死亡率が高かったため、「7歳までは神の子」と言われ、7歳未満の子はまだ神に属するものとされ、神がその運命を決めると考えられていました。

— なるほど、神の子ですが…。

宮前 そこで数々の儀礼を行うことで、子どもの無事な成長を祈ったと言えます。そして7歳のお祝いは、その不安定な時期を乗り越えた節目の儀礼であったため、特に7歳の祝いを重視する地方が多かったようです。

— 7歳が重視されていたとは知りませんでした。

宮前 改めてそんな袴着姿や着物姿の子どもたちを見ると、本当によくここまで無事に育ってくれたと感じます。

— 本当ですね。

宮前 季節だけでなく、人生の節目を大事にするのは日本人らしい習慣ですね。私自身も子どもの頃の、七五三のお



明治神宮に「七五三詣」に来られていたご家族



11月の室礼

柿：「嘉来」の文字をあてて、「喜びが来たる」ように祈りを込めています。
 千歳飴：紅白で祝儀と、「長く伸びる」という縁起を表しています。
 紅白紐：お祝いの気持ちで紅白結びにしています。

熊手を持ったお爺さん・箒を持ったお婆さん

おじいさんとおばあさんは、千歳飴の「千歳」の意味する長寿を体現し、箒は病や災難をはき捨てて、元気に育ててほしいという願いの象徴。
 熊手は、子や孫が七徳を自分の方へかき寄せられるようにとの、祖父母の気持ちを表したということです。



神楽鈴

3段に分けて、小さな鈴を15 (=3+5+7) 個付け「七五三鈴」とも呼ばれています。
 鈴には神様を呼び寄せる霊力があることから、昔から子どもの履物や衣服、持ち物に鈴をつけ、子どもの無事を願う魔除けとしたようです。



祝いをしてもらった記憶がよみがえり、両親をはじめ本当に多くの人に見守られ、数々の通過儀礼、お祝い事を重ね、今に至っていることを感じます。生きていく中で、こうした節目によって、感謝や祈りの機会を頂いていますが、自分の通過儀礼はもちろん、家族や親族の通過儀礼を通して、そんな気持ちを思い出させてくれるという意味では、このよくな年中行事や通過儀礼など、次世代へとしっかり繋いでいきたいと改めて実感しています。

一 子どもの成長をお祝いできるのは、親として嬉しいことなのだろうと、大人になつてしみじみ感じるのです。

宮前 室礼の先生から以前、1年の前半と後半を盆と正月で分ける、というお話がありました。

一 それはどういうことなのでしょう？

宮前 お年寄りの長寿を願う「9月の重陽の節供」は、1年の後半の行事ですが、「桃の節供」や「端午の節供」など、子どものお祝いの行事は3月、5月と、1年の前半に入ってくるということなんです。

一言われてみるとそうですね。

宮前 そうなってくると、「七五三も子どもの行事ですが、なぜ秋(後半)に？」と疑問が湧いてきます。

一 確かに、それはどうしてなのですか？

宮前 七五三は、徳川家がつくったようなものであり、文化の発生場所が違うということでした。

一 徳川家と関連していたのですね！

宮前 徳川家の後の五代将軍の綱吉が、幼少時代体が弱かったそうで、健康を祈って始まったと言われているそうです。実際に、七五三は五節供になっていませんね。(※五節供：七草、桃、端午、七夕、重陽の節供) 自然界の巡りの中で生まれた行事「五節供」は、前半が子どもで、後半が大人の行事です。まさに、自然の巡りと人間の一生は「同じ」ということなのです。自然界の中に四季があり、循環していて、その中で私たちも生きていくということに大事な味わいながら、そんな自然の巡りにあらがわずに年を重ねていきたいものです。

一 なるほど、今のお話を聞いてから室礼を見させて頂くと、盛り物一つとっても

様々な意味が込められること考えさせられます。

宮前 そうですね。七五三の室礼をしていると、自分がこうして無事に大人になり、元気に過ごせていることに対して、ふと自分を育ててくれた両親への感謝の気持ちが湧いてきます。自然とこんな気持ちにさせてもらえる室礼。やっぱり、大事にしていきたいと、改めて感じています。

一 大人になってから、自分の両親がどんな想いで七五三を迎えたのか、今度聞いてみたいものです。また、千歳飴を頂きながら他のクルーの七五三の話も聞いてみたいですね！

宮前 それぞれの思い出を聞けるのも楽しそうですね！

一 今回は明治神宮でのインタビューというところで、いつもと違った環境の中、新鮮な気持ちでお話を聞かせて頂きました。七五三で参拝されたご家族にお会いすることもでき、ご家族に想いを馳せるのも素敵な時間となりました。今回もインタビューありがとうございます。